

# 南白亀川上流部（柳橋～JR東金線） の事業再評価について

平成20年3月10日  
南白亀川流域委員会事務局

## 目次

### 1．対象事業の概要

事業概要、対象区間、区間の現状

### 2．事業再評価について

背景、評価時期、評価ルール、  
評価の視点、評価指標

### 3．検討結果

進捗状況、社会経済情勢、  
コスト縮減・代替案、投資効果

# 対象事業の概要

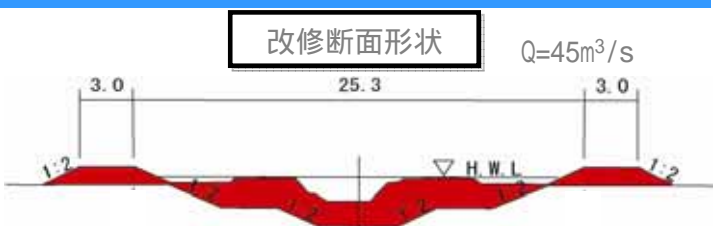


**住宅市街地基盤整備事業 (H5~)**  
 (柳橋 ~ JR東金線下流) L=4.16km

南白亀川上流部沿川の早急な治水安全度の向上を目的として、**住宅市街地基盤整備事業**による整備の促進を図っている。

# 事業対象区間

事業区間：柳橋 ~ JR東金線下流



# 事業対象区間の現状

全事業区間：L=4.16kmのうち、残事業は国道128号下流の中橋付近からJR東金線までの約700m区間のみであり、平成22年度中には事業完了予定である。

改修済み区間



残事業区間



## 事業再評価を行う背景

長引く景気低迷

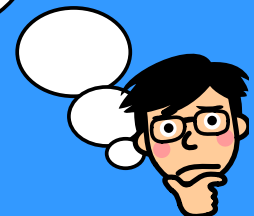
- 公共事業予算の減少
- 公共事業への関心の高まり
- 情報の透明性の確保
- 国民の環境回帰志向

時代のニーズに合うか？

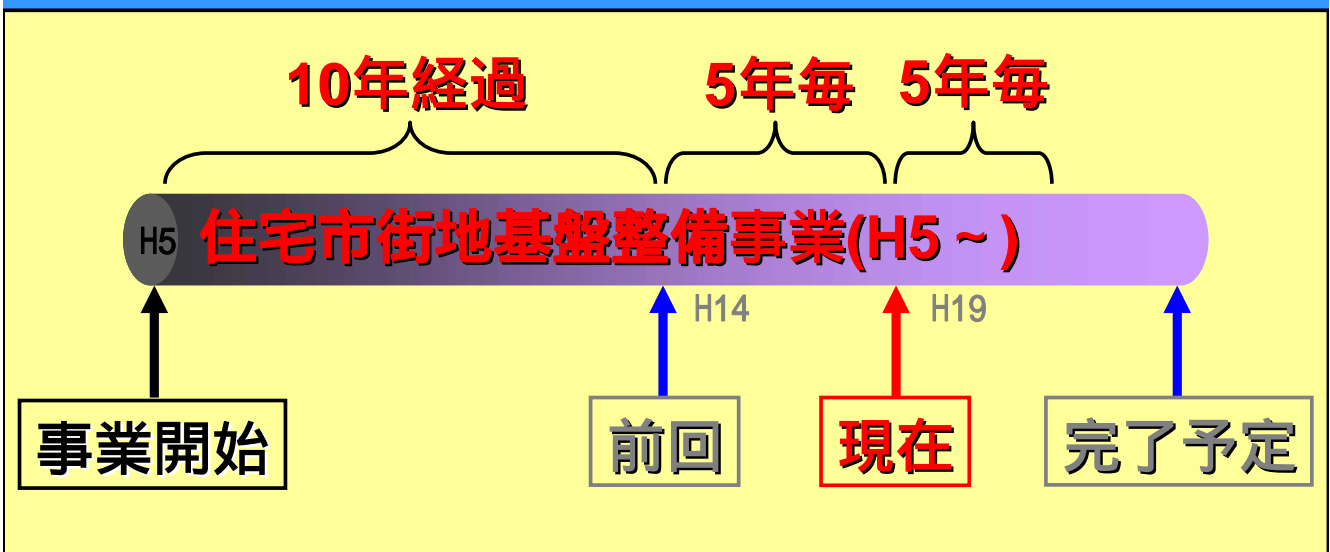
他の方法はないの？

などの疑問に答える

公共事業を評価する仕組み



# 事業再評価の時期



## [対象]

事業採択後 5 年経過して未着工  
事業採択後 10 年経過して継続中  
再評価実施後 5 年経過した事業

# 事業再評価のルール（評価者）

（千葉県県土整備部所管 国庫補助事業再評価実施要領）

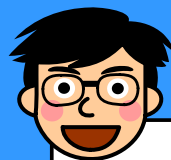
## すべての公共事業について

- 1) 河川事業・ダム事業であり
- 2) 河川整備計画策定のための流域委員会がある場合

地域と密接な関係  
計画策定段階から議論

評価監視委員会

流域委員会



# 事業再評価の視点

事業の進捗状況  
社会経済情勢等  
コスト縮減・代替案の可能性  
事業の投資効果



[ 継続 ]

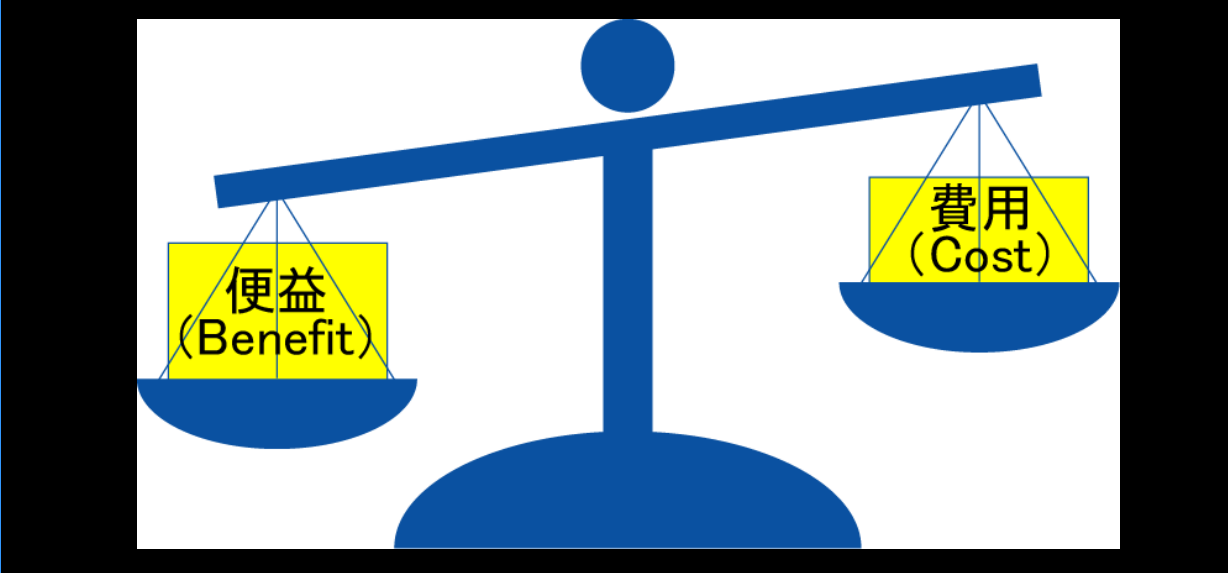


[ 中止 ]

流域委員会の結果に基づき河川管理者が判断

# 事業再評価の評価指標

河川整備に係る費用 (Cost) と、得られる便益 (Benefit) の比率で評価。  
B/C 1.0で事業の経済的妥当性を確認する。



# 視点 事業の進捗状況

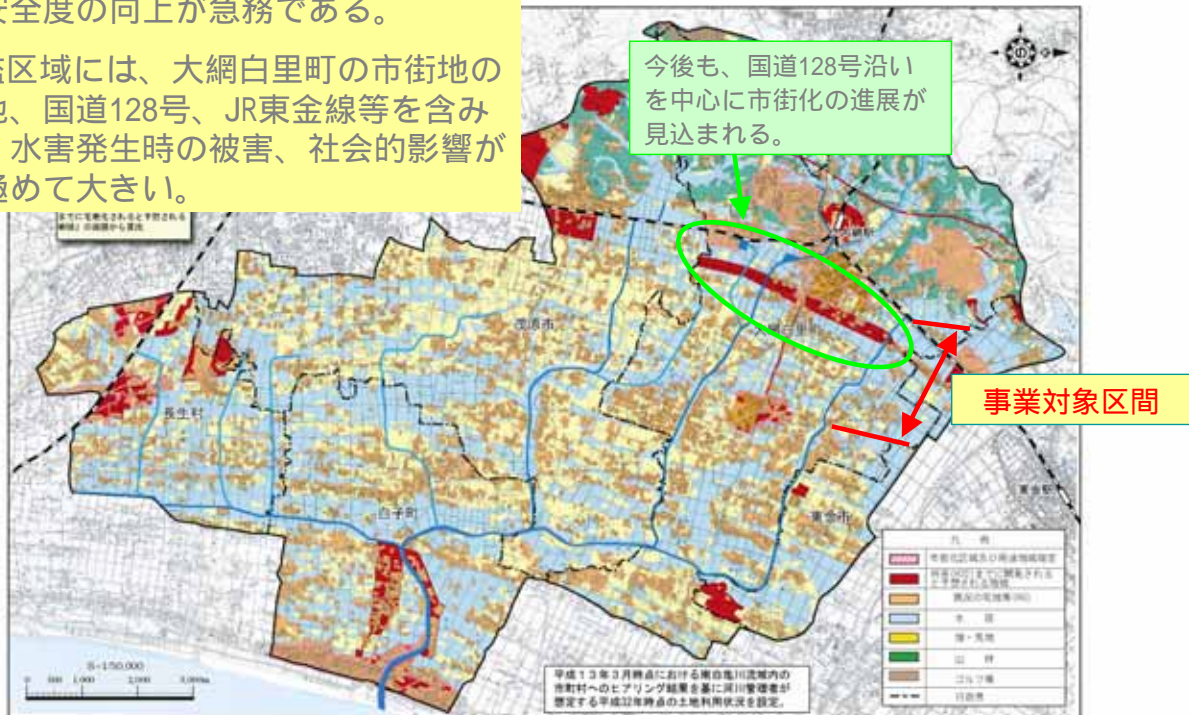
全事業区間：L=4.16kmのうち、残事業は国道128号下流の中橋付近からJR東金線までの約700m区間のみであり、平成22年度まで事業実施予定である。



# 視点 社会経済情勢等

本流域は、上流の大網白里町市街地を中心に都市化が進展しており、治水安全度の向上が急務である。

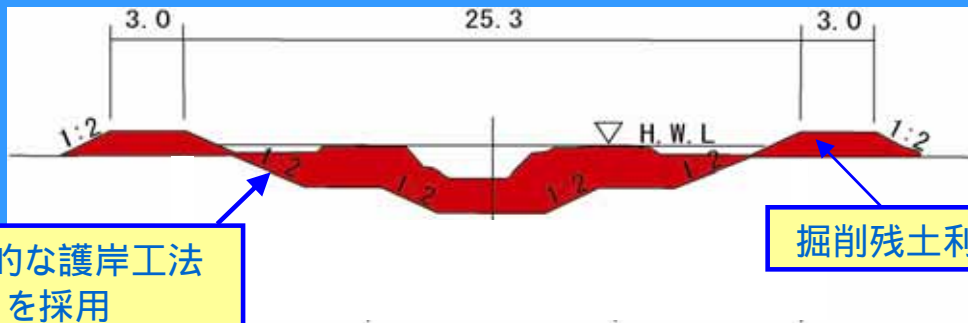
氾濫区域には、大網白里町の市街地の他、国道128号、JR東金線等を含み、水害発生時の被害、社会的影響が極めて大きい。



# 視点 コスト縮減・代替案の可能性

新たに用地買収をして調節池等を建設するよりも、下流河道と整合した河道改修を引き続き実施する方が経済的である。

また、経済的な護岸工法（カゴマット工）を採用するほか、今後の事業で発生する掘削残土の有効利用を図るなど、コスト縮減に努める。



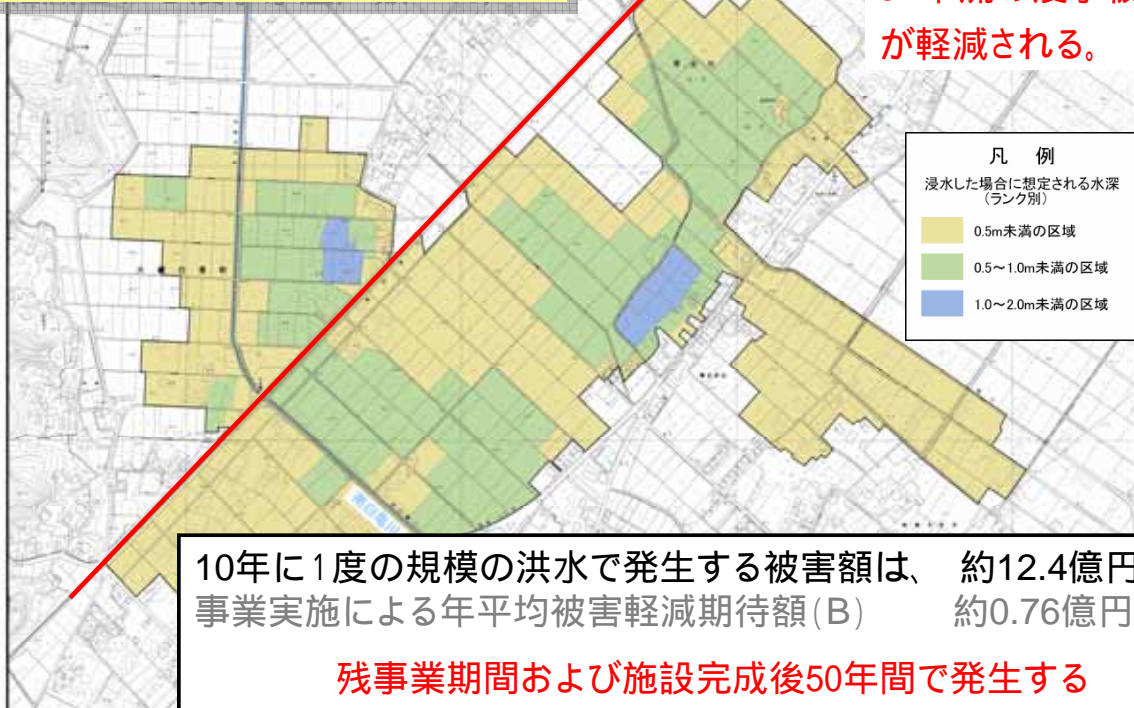
経済的な護岸工法  
を採用

掘削残土利用

# 視点 事業の投資効果

軽減される氾濫面積 69ha  
軽減される浸水家屋戸数 33戸

事業の実施により、  
JR下流の浸水被害  
が軽減される。



10年に1度の規模の洪水で発生する被害額は、約12.4億円  
事業実施による年平均被害軽減期待額(B) 約0.76億円

残事業期間および施設完成后50年間で発生する

**総便益 16.7億円**

# 総費用（残事業費 + 維持管理費）

残事業期間とその後の50年間の総費用

（ 現在価値化）

残事業費	9.25億円( 8.75億円)
維持管理費	2.39億円( 0.99億円)

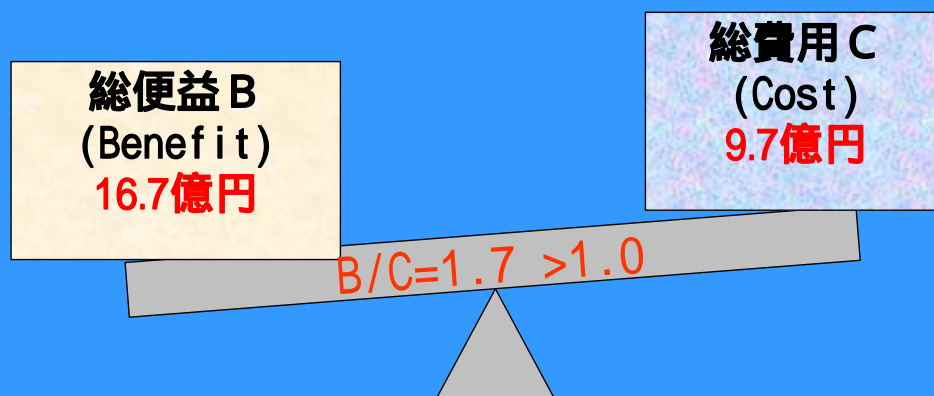
**総費用(C) 約9.7億円**

## 事業の投資効果(B / C)

今回の事業の総便益 B = 16.7億円

それに要する総費用 C = 9.7億円

$$B / C = 1.7 > 1.0$$



**よって、事業を継続することとしたい**